

本年度の重点目標

- ・社会的自立に向け、集団活動を通して社会の一員としての自覚を促し、責任や社会性を育む。
- ・ノーマライゼーションの理念のもと高等養護学校生と高校生との交流を最大限に図る。

領域	重点評価項目	中間評価(10月)	総合評価(3月)	
		自己評価	自己評価	学校関係者評価
1 学校経営	教育目標の実現に向けて努力している。			
	保護者に教育方針や教育活動について説明し、理解を求めている。			
2 教育課程・学習指導	個別の指導計画・教育支援計画を活用し、教員の共通理解のもとで生徒の実態に応じた指導を行っている。			
	生徒の学習意欲を喚起し、生きる力を育む学習活動と適切な評価を行っている。			
3 生徒指導	自立につながる基本的生活習慣の確立と学校生活の充実を目指した生徒指導を行っている。			
	ていねいな生徒指導により、いじめのない安心して学べる学校づくりに取り組んでいる。			
4 進路指導	キャリア教育の視点を生かした進路に係る取り組みを通して、生徒の自己理解を促進し、本人の希望に応じた進路指導を行っている。			
	各学年に応じた就業体験を行うことで、生徒が望ましい勤労観や職業観をもつよう指導を行っている。			
5 保健・安全指導	生徒の心身の状況把握に努め、その状況に応じて適切な対応をしている。			
	火災・地震等の災害を想定した避難訓練を計画に基づき効果的に行っている。			
6 人権教育	安心して学べる学校づくり、明るく生き生きとしたクラスづくりに努めている。			
	人権LHRを計画的に実施し、人権意識を高める指導を系統的に行っている。			
7 環境教育	環境学習を特別活動や教科学習の時間に位置づけ、積極的に行っている。			
	ごみの減量化やリサイクルなどを意識した学習活動を展開している。			
8 交流及び共同学習	甲南高校との交流の意義を評価し積極的に進めると共に、その成果の発信に努めている。			
	地域や企業との交流を通じて、共に学び共に活動する経験を積む学習活動を展開している。			
9 教職員の現職教育	教職員の研修は、学校内外の状況を踏まえながら、必要な研修を適切な時期に実施している。			
	教職員は主体的に学ぶ意識を持ち、ICTを活用した指導力の向上に努め、授業改善に活かしている。			
10 センターの機能の発揮	地域の学校や保護者に向けて、学校説明会や特別支援教育研修会などの事業を行っている。			
	地域の福祉や医療、就労支援機関等と積極的に連携を図っている。			
11 その他学校の取り組み	施設や設備について定期的に点検を行い、適切に管理している。			
	授業公開を通じて、保護者や地域の学校に教育活動を発信している。			

(注) ・評価については、A B C Dの4段階で示す。

・生徒指導の欄に、いじめの項目を入れること。また、教職員のICT活用指導力の向上、キャリア教育に関する項目について、任意の領域に含めること。

・自己評価：A B C Dの基準については、評価項目の内容が、十分に達成できた場合(達成度80%以上)はA、おおむね達成できた場合(達成度60%以上80%まで)はB、あまり達成できていない場合(達成度40%以上60%まで)はC、達成できていない場合(達成度40%未満)はDとする。ただし、アンケートの結果等を機械的にA B C Dの評価に置き換えるのではなく、学校の現状を真摯に分析・検討し、今後の学校改善につながるよう、適切に評価すること。